

退任ご挨拶

前会長 前田大作

1962年クリーブランド

広報担当の浅野さんから、退任挨拶を、との御依頼を受けましたが、過去数年、実質的に CIF-Japan を動かして下さっていたのは、事務局長の小池さんであり、広報担当の浅野さんであり、また会計担当の清水さんでした。私は、所属大学の仕事にほとんどすべての時間と勢力を注がざるをえず、CIF-Japan のことはこの3人の方にすべてお任せして、名前だけの会長であったに過ぎません。この3人の方には本当にお世話になりました。退任にあたり、心から感謝申し上げます。

私が、クリーブランド・インターナショナル・プログラム（CIP）に参加したのは1962年ですから、もう45年以上も前のことになります。当時、日本からCIPへの参加は、アメリカ政府からの招待でした。したがってほとんど全く自己負担はなく、そのことだけでもCIPにはどれだけ感謝しても足りません。アメリカ政府の招待ではありましたが、内容は国際プログラムで、世界各国からの若いすぐれたソーシャル・ワーカーや青少年指導者と幅広く親しく交流できたこと、そして何よりもプログラムの創始者であり、運営責任者であったヘンリー・オーレンドルフ博士の高邁な人格と思想に親しく接することができたことは、私に決定的な影響を及ぼしました。そのことを考えれば、CIPへの恩返しのためにもっともっと尽くすべきでしたが、その時々の職業的、社会的責務に追われて、ほとんど何の恩返しもできずに齢を重ね、ついに退職生活に入ることになったことを悔やむばかりです。CIF-Japan が、新しい会長や役員の方々のご活躍で、今後他国のCIFに劣らない活発な活動を展開して下さることを期待いたしております。

（ルーテル学院大学名誉教授・学術顧問、日本社会事業大学名誉教授、東京都在住）

再起を期して

前事務局長 小池嘉夫

1964年クリーブランド

1 昨年11月4日のこと「ニューズレター第17号」の仕上げにかかっておりました。前田会長の新年挨拶、藤本聿子さんのインド便り、CIF Int'l 事務局長 Ms Maria Hierlinger-Gudat（ドイツ）からのメッセージ、それに小生の駄文と会計報告で構成し、さてこれからPCに向かおうとしたところ、急に気が遠くなり、そのままダウンしてしまいました。なんとか回復を願いつつも病気の正体が不明で、体力、気力とも衰えるばかり。その結果、長い長い停滞を重ね皆様には多大なご迷惑をおかけしました。どうかお許しください。

その後、鋭意療養につとめて参りましたが、病状は悪化の一途をたどり、今年（平成19年）9月には東京医療センター（旧国立第2病院）の外科集中治療室に14日間も滞在しました。しかし奇跡というべきか、生命力に感謝すべきか、からくも危険な状態を脱却することができました。現在ついている病名は「原発性アミロイド」（難病認定を申請中）と言い、気管支に病根が大量に沈着しています。（私の肺は世界の200例に入るほど医学的に珍しいものなんだそうです。）

以上のような経過でありましたが、今は精神力を奮い起こして『絶対の再起』を期しております。そして僅かであってもCIF-JAPAN/CIF Int'l の皆様とコンタクトして参りたいと願っております。小生は、1964年（昭和39年）のクリーブランド・プログラムに日本からの第3期生として参加しました。ことほど左様に既に最古参の一人でありますからCIP/CIFの伝統を語り継ぐだけでなく、本質的に最も大事なことでありながら、いまだ無明の中にあるもの（CIPの今日的意義の再発見・再確認伝播を行うこと）、これの解明を果たす責務があると思っております。

今日までの皆様のご支援とご好意には深く感謝しております。また今回のCIF-JAPANの総会から生まれたモメンタムを本当に心づよく思っております。新役員の皆様にはご苦勞様です。皆様のご健勝ご健闘を念願しております。とにかくみんなでがんばりましょう！！

（東京都在住）

長期にわたり役員としてご尽力されこのたび退任された皆様には、会員一同心より感謝申し上げます。

